

県内復興・経済日誌（2020年12月）

1日

《県産食材の魅力が詰まった家庭向けグルメボックス発売開始》

全日空（ANA）のグループ会社「ANA ケータリングサービス」が、本県の食の魅力を詰め込んだ家庭向け企画商品「ANA FINDELISH グルメ紀行ボックス福島」の販売を始めた。本商品は、新型コロナウイルス感染拡大で消費が落ち込む中、本県が誇る豊かな食を全国に発信しようと全日空と県が企画した（2021年3月まで）。

《10月の有効求人倍率、11カ月ぶりに前月を上回る》

福島労働局は、10月の県内有効求人倍率（季節調整値）が1.18倍で前月から0.03ポイント上昇し、11カ月ぶりに前月を上回ったと発表した。県内ハローワーク管内別では須賀川（0.82倍）と白河（0.98倍）が1倍を下回った。新規求人数は前年同月と比べ12.8%減少し13,096人、新規求職者数は同3.1%減の6,629人だった。

6日

《「はやぶさ2」のカプセル帰還》

小惑星探査機「はやぶさ2」が地球の重力圏に帰還し、小惑星「リュウグウ」の砂が入っているとみられるカプセルを送り届けた。宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、オーストラリア南部の砂漠でカプセルを発見し回収したと発表した。同探査機には、県内企業が開発した「福島製」の技術が数多く搭載され、計画の成功を支えた。

7日

《浪江町、水道水入りボトル発売で安全性PR》

浪江町は、町の水道水を詰めたペットボトル「NAMIE WATER（なみえの水）」を発売した。東京電力福島第一原発事故で一時全域が避難指示区域となった町の水道水の安全性をPRし、風評払拭につなげる。

8日

《福島市に商業ビル「Lamp120」オープン》

福島市中心部の街なか広場西側に整備されていた4階建てテナントビル「Lamp120」がグランドオープンした。市街地の商業施設として、にぎわい創出に期待がかかる。

10日

《高湯温泉「満足度」3年ぶり全国一》

リクルートライフスタイル（東京都）が発表した「じゃらん人気温泉地ランキング2021」の満足度総合部門で、高湯温泉（福島市）が3年ぶりの全国1位に輝いた。最近1年間で行ったことがある温泉地の満足度を尋ね、高湯温泉は集計対象130人のうち「とても満足」「やや満足」と答えた割合が96.2%で最も高かった。

15日

《中合跡に「福島市街なか交流館」開業》

福島市の旧中合福島店が入居していた空きビルを活用し、中心市街地の活性化を図る拠点施設「福島市街なか交流館」がオープンした。1階にスーパー、2階に交流・展示スペースを設け、JR福島駅東口の再開発に伴うビル解体前の2022年2月末まで、市街地のにぎわい創出を図る。

16日

《楢葉沖の洋上風車、全て撤去へ》

政府が楢葉町沖で実施している浮体式洋上風力発電の実証研究を巡り、経済産業省は、2021年度に風車2基など全設備を撤去する方針を示した。本事業は東京電力福島第一原発事故からの復興の象徴として始まったが、発電効率が低いなど採算が見込めない状態に陥っていた。

24日

《浪江町で介護支援ロボ製造》

AI（人工知能）ロボット開発・製造の富士コンピュータ（兵庫県）が、浪江町の藤橋産業団地に進出することになり、同町と立地に関する協定を結んだ。開発した介護用AIロボットの製造拠点などを設け、2021年4月の操業開始を目指す。

25日

《福島市内の飲食店に時短要請》

県は、福島市での新型コロナウイルス感染症の急増を受け、同市内の酒類を提供する飲食店などに対し、特措法に基づき12月28日から2021年1月11日まで営業時間の短縮を要請すると発表した。要請に応じた場合、1店舗当たり最大60万円の協力金を支給することも決めた。